

## 人口ビジョン【骨子案】

◆南あわじ市の人口の現状を示し、今後の持続可能な発展に向けたまちづくりの基礎とします。また、めざすべき将来の方向性と人口の将来展望を示します。

### 1. 人口動向分析

#### 【現状分析】

- 1) 総人口(国勢調査)は、1980年の57,744人をピークに一貫して減少(1980年:57,744人⇒2000年:54,980人⇒2010年:49,834人)
- 2) 人口減少の大きな要因①(社会減) 高校・大学進学世代(15~19歳)と就職世代(20~24歳)の人口減少が多く、進学や就職に伴う市外への転出が社会減の大きな要因
- 3) 人口減少の大きな要因②(自然減) 2013年の合計特殊出生率は1.71と全国平均(1.42)より高いものの、死亡数が出生数を上回り、人口減少が継続

#### 【将来人口の推計】

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計(平成25年3月)では、2060年には約23,800人まで減少する見込み
- 2) 生産人口が減少し、2060年には高齢化率が4割を越えると推計

### 2. 人口動向及びアンケート調査結果から見える課題

- 1) 市民意識調査アンケートでは、人口減少に歯止めをかける対策として「市内に働く場所を増やし、市内出身の若者の流出を抑える」と回答した方が多く、若者の雇用対策が重要である。
- 2) 学生アンケートでは、「将来市外に住む」と回答した学生が多くなっており、市外に出た若者が戻って来るための諸施策が必要である。
- 3) 人口減少が今後も続くと、「地域経済の縮小」「地域産業の後継者不足による地域産業の衰退」「地域力の低下による地域コミュニティの崩壊」などが懸念され、更なる人口減少に拍車がかかる可能性も否定できない。

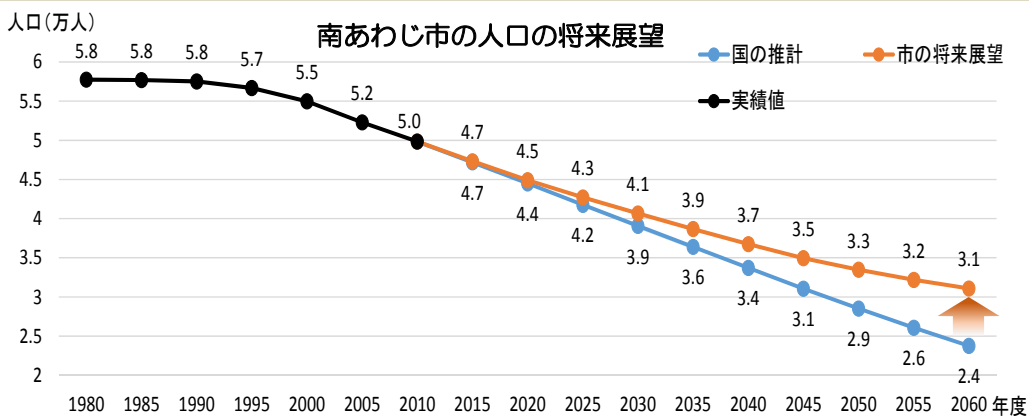
### 3. 人口の将来展望

#### 【目指すべき将来の方向性】

- 1) 若い世代の就労と結婚・妊娠・育児の希望を叶える。
- 2) 神戸や大阪など都市圏への人口流出に歯止めをかける。
- 3) 超高齢化社会に対応したまちづくりをおこなう。
- 4) 合計特殊出生率の上昇や転出抑制、転入促進により、人口減少を抑制する。

#### 【2060年目標人口(本市のめざす人口)】

- 1) 将来展望の仮定
  - ◆出生数: 2025年までは概ね現状出生数を維持し、2030年以降は合計特殊出生率2.15を維持
  - ◆社会増減: 2025年までに社会減(純移動)を半減し、2050年以降以降移動をゼロ
- 目標人口: 約31,000人**



### 4. 課題解決の方向性

人口ビジョンで掲げる目標人口を達成するため、重点的に本市へ呼び込み、定住してもらうターゲットとして『若者』と『子育て世代』を設定し、総合戦略を展開させる。

#### 【ターゲット】

- ◆若者: 転出超過による社会減の抑制のため
- ◆子育て世代: 出生率の向上による自然減の抑制のため

## 地域創生総合戦略【骨子案】

◆南あわじ市人口ビジョンにおいて提示する人口の将来展望を踏まえ、めざすべき将来の方向性として、4つの基本目標を設定し、基本目標ごとの具体的な施策を戦略として展開します。

### 基本目標〔背景とめざすべきまちの姿〕

#### 【基本目標Ⅰ】地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち

本市は市内各地域において、自治会を中心に地域の課題や将来のことを話し合う場として、平成27年4月の市民交流センター設置に併せ、地域の多様な力を結集した「地域づくり協議会」を組織している。地域づくりでは、地域住民や地域づくり協議会などの組織がそれぞれ主体となって、防犯や防災、教育、自治、環境など地域が抱える課題・課題について関心を持ち、参加し、解決していく総合的な力(地域力)を育むことが重要である。子育て世代や若者、高齢者を含めた各世代が、まちづくりや防災などの地域活動への参加を通じて地域ぐるみで支えあい、地域の住民全てが安心して笑顔で暮らせるようなまちづくりをめざす。

#### 【基本目標Ⅱ】働く場を得て、ずっと住み続けたいまち

本市では、進学や就職を要因とする転出者(社会減)が多く、地域の将来を担う世代をいかに呼び戻すが人口減少抑制への大きな課題となっている。また、本市の特徴である自然の豊かさや農業・漁業などの一次産業、淡路瓦、手延べそうめんに代表される地場産業に就業している(しようとする)人々が安定した生活(職と住居)を確保できるようにすることが重要となる。そのため、本市にずっと住み続けたいと思えるよう、働く場や住居の充実と情報提供する仕組みを整え、既存産業が活性化するとともに、地域資源を活かした新たな起業機会に恵まれたまちをめざす。

#### 【基本目標Ⅲ】魅力と味力があふれるまち(ふるさと)

本市は、豊かな自然や食文化、史跡・伝統芸能を数多く有しており、これらの一つひとつのブランド力は高く、地域の振興や活性化に寄与してきた。しかし、結果として観光客の増加にはつながっておらず、より一層のブランド力の強化と効果的なPRが必要となっている。他方では、これら数多くの魅力が市民全体に十分浸透していない(=都市部へのあこがれが強くなる)ことで若者世代の減少につながり、まちの賑わいや交流人口低下への要因の一つとなっている。そのため、教育課程などにおいて自然の中での体験や伝統芸能体験活動の推進を図り「ふるさとを思う心」(郷土愛)を育み、定住する次世代の若者の育成をめざすとともに、自然や歴史・文化など本地域が古来保有する「魅力」に加え、本地域の特色である一次産業の持つ力を「味力」と位置づけ、「魅力」と「味力」の両面から新たな価値を創出し、観光・交流人口の増加による活気あふれるまちをめざす。

#### 【基本目標Ⅳ】子育てしやすいまち

本市では、合併以降特に子育て支援施策に注力し、一定の成果を上げてきている。しかし、依然として人口減少は進み、核家族化や共働きの増加による子育て・教育に対するニーズは多様化傾向にあるなか、平成27年3月に「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、家庭や地域、関係者・関係団体と連携しながら、子育て支援に関するさまざまな施策を推進している。また、子どもたちが安全に安心して学ぶことができるよう、小中学校の耐震化、通学路の安全確保など教育環境の整備、いじめの根絶、防災教育の充実などにも取り組んでいる。こうした取り組みをさらに強化し、より一層子育て環境を充実させることで各家庭がゆとりをもって子育てできるまちをめざす。

### 施策目標

- 1) 災害死亡率の低下のため、防災意識を高め、円滑な消防防災活動の推進(危)
- 2) 交流人口拡大による地域活性化(企)
- 3) 支え合う地域社会づくりの推進(企)
- 4) 市民サービス向上につながる情報提供(企)
- 5) 強固な財政基盤により魅力ある施策展開を図れるまちづくり(総)
- 6) 人口減少や住民ニーズなどに対応した公共施設等総合管理(総)
- 7) 地域力を創造するコミュニティの構築(市)
- 8) 健康で安心して暮らせるまちづくり(福)
- 9) 「ため池」災害の未然防止(農)
- 10) 農村環境の管理や保全活動による地域の活性や世代間交流の促進(農)
- 11) 生活道路及び住宅地の湛水被害を軽減し、災害時の孤立化を解消するまちづくり(建)
- 12) 安全かつ利便性の高い道路交通網の整備(建)
- 13) 安全・安心で快適な住みやすいまちづくり(建)
- 14) 生活環境の改善と自然環境の保全につながる地域づくり(建)
- 15) 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進(教)

- 1) 地域特産品と地域外人材活用によるにぎわいの創出(企)
- 2) 田舎暮らしの魅力発信と住まいの充実による移住・定住の促進(企)
- 3) 安心して暮らせる魅力ある地域づくり(企)
- 4) 吉備国際大学と市大学連携推進協議会による地域連携体制づくりの促進(企)
- 5) 働く場を創出し、若者が働く場を得てずっと住み続けたいまちづくり(企)
- 6) 人口減・職員減に備えたICTの利活用(企)
- 7) 市民サービス向上につながる情報提供(企)
- 8) 障がい者が安心して働き続けられる場の提供(福)
- 9) 起業家を育成する場所提供と人の活力や商店街の活性化(農)
- 10) 淡路瓦屋根の普及促進(農)
- 11) 農畜産物の安定的な生産(農)
- 12) 担い手の確保と育成(農)
- 13) 農畜産物の高付加価値化(農)
- 14) 農業経営の効率化(農)
- 15) 淡路島特有の再生可能エネルギーと新産業の創出(農)
- 16) 農業女子担い手の連携と育成(農)
- 17) 安心して農業を続けていけるまち(農)
- 18) 農業従事者の確保と育成による地域農業の活性化(農委)

- 1) まちの魅力向上に向けた若者世代への情報発信(企)
- 2) 広域連携による地域振興等の促進(企)
- 3) 地域資源(渦潮)への関心・愛着・保全の意志がある人づくり(企)
- 4) 市内交流人口の拡大(企)
- 5) 三世代間交流による地域の伝統・文化の継承(福)
- 6) 南あわじの認知度の向上(農)
- 7) 見力により南あわじ市の魅力・味力を世界中に発信!(農)
- 8) 観光交流人口の増加(観光ツアー客を増やそう)(農)
- 9) 豊かな農畜産物の魅力発信(農)
- 10) 南あわじ産漁獲物の販路拡大及び付加価値向上(農)
- 11) ふるさとの味力発信及び認知度拡大による販売促進と体制の構築(農)
- 12) 南あわじ市が大好きな子どもたちを増やす(教)
- 13) 市民全体による南あわじ堪能事業(教)
- 14) ふるさとの魅力を再発見し住み続けたいまちづくり(教)
- 15) 郷土愛を育む文化財整備(教)

- 1) 子育て世代に役立ち市民サービス向上につながる情報提供(企)
- 2) 子育て世代の負担軽減及び再利用促進(市)
- 3) 子育てしやすく安心して暮らせる地域との協働支援体制づくり(福)
- 4) 安心して子どもを預けられる環境整備と保育サービスの向上(福)
- 5) 多子型の出産・子育てが可能な環境づくり(福)
- 6) 子どもを安心して育てる支援(福)
- 7) 子どもの健やかな成長の見守り(福)
- 8) 子育てしやすく安心して暮らせる地域づくり(建・教)
- 9) 子どもたちを災害から守るまちづくり(教)
- 10) 子どもたちを犯罪から守るまちづくり(教)
- 11) お互いを尊重し、楽しく安心して学校生活を送ることができるまちづくり(教)
- 12) 保護者の経済的負担を軽減し、子どもの教育振興を図るまちづくり(教)
- 13) 南あわじ市の小中学生の学力向上(教)
- 14) 英語が大好きな子どもを増やす(教)
- 15) 子どもたちが芸術にふれあい、豊かな創造力や表現力を養う(教)
- 16) 子どもを産みたい、子育てしたいと思う保護者を増やす(教)
- 17) 子どもが安心して学べる教育環境の整備(企・教)
- 18) 安心して学べ、安全に子育てできるコミュニティづくり(教)
- 19) 放課後児童クラブ(学童保育)の充実(教)
- 20) 小学生が放課後や休日に体験学習を通じ、生きる力や協調性を養うまちづくり(教)
- 21) 子どもから大人までスポーツのできる環境づくり(教)